

問題 一

問一 ア 砕 イ 装飾 ウ 腐(る) エ 構築 オ 検索

問二 人類は手ぶりや身ぶり、物を用いて情報を共有する以上に、道具を仲間と共有することで、その道具で何を、いつ、どこで、どのように処理したのか、というストーリーを共有し、世界を変えていったということ。

問三 時間と空間を超える性質をもつ言葉によって、人間は自分の生き方に意味を見出し、論理を創って世界を解釈するようになり、大きな物語をより多くの人々と共有して大きな重層的な社会を作り上げているということ。

問四 言葉は、嗅覚、味覚、触覚に大きく依存する人間どうしの信頼の輪を強化し拡げることには大して役立っていないだけでなく、自然の摂理とは違う物語を創り出すことによって、自然に反した暴力や戦いに人間を駆り立てるようになってしまったということ。

問五 これまでの物語が、互いにわかりあえないことを前提に合意や共存を作るものであったのに対して、AIによって作られる新たな物語は、わかることを前提とするものであり、それは情報にならない部分にこそある人間の生きる意味や、相手を完全に理解できないからこそ愛着や働きかけの動機が生まれるという人間のあり方を手放すことであるから。

問題 二

問一 (1) 夫婦で趣味のワカサギ釣りをして旅館に納めていたが、夫が寝たきりになった今は、一人で納める小遣い稼ぎと捉えている。
(2) 毎日患者の死を見る臨床医の仕事に比べて、自らの手で食料を得る原始的な労働であり、明日を生きる活力を与えてくれるものと捉えている。

問二 すでに安男さんは息絶えていること。その理由は、かよさんが全力で走っていないことに、安男さんの現状が、焦ってもはやどうしようもない状態なのだと予想されたからである。

問三 ア 「笑顔を造る途中でふいの涙におおわれながら」という描写があつて、気丈に振る舞おうとしているのに、涙が思いがけず出てしまっているのだ
イ 半身不随の病人を、家で何年も一人きりで介護してきた苦労や辛さからの解放感

問題 三

問一 ア 吉野の桜を見に行こうと誘ってくれた

イ 参詣した

ウ 何日も経つうちに

エ そのまま家に帰っても

問二 連歌

問三 亡き妻の面影を求める方法を妹背山で探すため。

問四 友人らとの旅では疲れを感じつつも名残を惜しんでいたが、妻のいない家では孤独の中で人生の終わりに思いをはせている。

問題 四

問一 ア あへて（あえて） イ また ウ ひそかに

問二 B

問三 (1) どうして行かないだろうか、いや行くつもりだ。

(2) 不

問四 かならずここにしし、さるあたは（わ）ず。

問五 重耳は、齊女に心奪われ、このまま齊で一生楽しく過ごそうと思っているが、齊女は、公子である重耳が晋王になることを待ち望み苦勞している者たちに報いるために重耳が晋に帰らないのは恥ずかしいことだ、と考えているから。